

山形大学附属学校園だより  
**六 稜**

2023.3.10

【発行】  
 山形大学附属学校園

【印刷】  
 坂部印刷株式会社



ICTを活用した外国語教育（経産省：学びと社会の連携促進事業【EdTech】【参加】【特別支援学校】）

地域と共に歩み  
 地域を創る



附属学校運営部長  
 三浦 登志一

附属学校園のPTA及び同窓会、翠稜会の皆様には、日頃から格別のご支援とご協力をいただき、あらためて御礼申し上げます。発生以来三年に及ぶ新型コロナウイルス感染症も、附属学校園においては大きな広がりをもつことなく現在に至っています。これも、学校の取組や要望に対する皆様のご理解があったからこそのもので感謝いたしております。

日本の学校教育を長年にわたって牽引してきた附属学校園は、時代の要請に応える教育実践の追求と教育環境の整備拡充を求められてきました。そして、着実にその要請に応えてきました。一方、これまでの実績に満足することなくその存在意義を問い直し、これまで以上の役割を果たすことが求められる時代になっているという側面もあります。少子化が進み、地域の小学校や中学校が減少する中において、附属学校園の教育をその立地する社会の将来につなげて追究することが必要な時代になっています。

そのような状況を踏まえ、昨年度からの計画に基づいて、現代的な教育課題に関する四つの共同研究部会（①ICT教育部会、②インクルーシブ教育部会、③英語教育部会、④SDGsを踏まえた教育部会）を新設しました。これは、四校園相互の連携を深めると同時に、大学・学部との協働性を高めるものでもあります。こうした現代的な課題の追究を通して、附属学校園に通う子どもたちの教育の充実を図っていききたいと考えています。

また、「地域づくり」の観点から、附属学校園が「地域」に関わっていくことも重要になってくると考えています。従来、全国にある附属学校は「地域をもたない」という特徴がある学校として位置付けられてきました。山形大学の附属学校園も同様です。しかし、実態としては、その卒業生たちが多方面にわたって活躍し、強力に「地域づくり」を推進しています。幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の異なる四つの校種がある山形大学附属のメリットを生かしながら、各学校園が地域で活躍する方々とのつながりを深化し、子どもたちが子どもの時から「地域づくり」に関わっていくことが重要であると考えています。その中核的な取組として「山形大学附属学校園コミュニティ・スクール構想」を立案し準備を進めているところです。

これまで以上にPTA及び同窓会、翠稜会の皆様のご協力を仰ぐことが多くなると思いますが、ご理解・ご協力いただければ幸いです。



県特P研修会【オンライン】(特PTA)



奉仕活動(小PTA)



ぞうきんプロジェクト(中PTA)



ふよふの集い「幼児期からの性教育」(幼PTA)

PTA活動

今年度のPTA活動

附属幼稚園PTA会長 吉田 光伸

日頃よりPTA活動へご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。今年度のPTA活動は、一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響により多くの制限を受け、中止や規模を縮小した活動もありましたが、感染拡大防止の取り組みを行いながら、たくさんのお力添えによりPTA活動を行うことが出来ました。

本園では、学級委員長会、行事部、広報部、図書部の専門部に所属し、PTA活動を行っています。今年度は、学級委員長会では「ふよふの集い」にて、講師を招き「幼児期からの性教育」について保護者を対象に講演会を実施しました。行事部では、降園時に交通安全の立哨活動を行いました。広報部では、本園の広報誌「園じよい」の編集・発行を行い、子ども達の園生活などの情報発信を行いました。図書部では、蔵書管理、おすすめ本の紹介、リサイクル本の提供や親子貸し出しの補助を行いました。

子ども達が明るく・元気に・たくましく成長し、充実した園生活を送れるよう、今後とも幼稚園と協力し、新しい時代の変化に対応しながらPTA活動を行って参りますので、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

今年度のPTA活動

附属小学校PTA会長 菅野 大輔

日頃よりPTA活動にご協力を頂きまして心より感謝申し上げます。今年度におきましても新型コロナウイルスの感染拡大は収まらず、制限された中でのPTA活動となりました。四月のPTA総会では昨年に引き続き紙面のみでの活動報告と予算の承認を頂きました。評議員と総務部は今年度も安全部と共に、子どもたちの登校を指導頂きました。広報部は「紙面学習参観」を広報誌「附小だより」に掲載して頂き、みのり遠足、修学旅行、体験学習、水泳教室といった生き生きと学ぶ子どもたちの活動を伝えて頂きました。保体部は、みのりSF(スポーツフェスティバル)において保護者の皆様が参観できることが可能になったことにより、意欲的に支えて頂きました。研修部は、山形警察署生活安全課少年輔導専門官安部尚子さんによる「子どもが巻き込まれる犯罪やトラブル防止」の講演を録画配信して頂きました。母親委員会は、十一月に制服リユース会を開催致しました。

新型コロナウイルスによる活動の制限は三年目となりましたが、少しずつではありますが対面での活動ができています。これからもPTA活動にご協力頂きますよう、宜しくお願い致します。

コロナ禍でも展開可能なPTA活動

附属中学校PTA会長 海和 伸吉

日頃よりPTA活動にご理解ご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。コロナ生活も三年目となり、収束する期待もありましたが、依然として高止まり傾向が続き、今年度もPTA全体での活動はもとより、各専門部会の活動も思うような活動は残念ながらできませんでした。

ただ、そのような中、昨年に続き総務部の合唱コンクールでの運営協力、広報部の「附中だより」の発刊、保体部の市P連主催のソフトボール大会への対応、母親委員会の制服リユース販売会の開催や「ぞうきんプロジェクト」が継続されるなど、コロナ禍でありながらも柔軟に対応することができました。

特に、母親委員会が昨年から実施した「ぞうきんプロジェクト」は、各ご家庭から古タオルを寄付いただき、制服リユース販売会での売上金をもとに事業所に作成を依頼し、納品されたものを学校での清掃活動に活用していくという好循環で今後も持続可能な活動になっているのではないのでしょうか。

結びに晴れて制限のない活動ができる時期が訪れることを願いつつ、今後とも、校長先生はじめ先生方からのご支援に感謝し、子どもたちが安心安全な環境で、生き生きと様々な活動に取り組んでいける学校生活を送れるよう、保護者の皆様のご協力をお願い申し上げます。

コロナ対応のPTA活動

附属特別支援学校PTA会長 山本 享子

日頃より、PTA活動においてご理解ご協力賜り、厚く御礼申し上げます。今年度はコロナ対応を講じた上で、対面各活動が実施できるよう、創意工夫して進めて参りました。PTA総会は三年ぶりの対面開催でした。校内二つの会場をオンラインで接続し総会を進め、学校と家庭の連携、協力がより深まりました。企画部では、研修会を二班に分け、市職員の方と相談支援事業所の方をお招きし、「卒業後の福祉制度と年金」「学齢期の福祉制度・就労情報」の講話をいただきました。学部委員長は毎年好評のおさぎりの会を七月と十二月に開催しました。事前に出品一覧を配付し、期間を複数日設けました。保護者からは大変喜ばれました。

また、コロナ禍だからこそ交流できる場が欲しいと多くの要望を受け、各役員と有志の保護者の協力の下、計画を進めていき、初めて三学部合同懇談会を開催しました。「子どもの就労に向けて」をテーマとし、縦割り三グループで進路や学校、家庭全般の相談、親睦を深める場として大好評でした。

今年度のPTA活動の充実を図るべく、ご尽力下さった先生方、保護者の皆様に深く感謝申し上げます。



交流及び共同学習(幼・特)



附中授業参観(小・中)



交流及び共同学習(中・特)



年長児と1年生の交流活動(幼・小)

交流学习の様子



今年度の附属中学校

今年度はコロナ禍3年目。大会等への参加条件等、少しずつ緩和されたことが増え、感染症対策を講じながら学校教育活動を行ってきました。

入学式は、今年度も新入生と保護者で実施しました。市中総体では陸上部、剣道部で多数入賞し、市中新人大会では剣道、陸上部、サッカー部が好成績を収めました。また、バレエ部が新人大会において十数年ぶりに公式戦で勝利を収めました。

運動会では各軍が趣向を凝らした応援や競技に全力で向かう姿を、合唱コンクールでは学級がまとまり美しい歌声を披露しました。

研究では、5月に学習指導研究協議会を実施し、授業などを公開することができました。研究テーマ「探究的な学びを通じた資質・能力の育成」の最終年次として3年間の集大成を公開しました。

今後も、ご家庭のご協力とご理解を得ながら日々の授業を大切に、生徒一人一人の育成に邁進してまいります。

研究テーマ「探究的な学びを通じた資質・能力の育成」

主な行事と日程

- 4月8日 入学式
4月 P T A総会(紙面開催)
5月26・27日 学習指導研究協議会
7月8日 運動会
7月21日 授業参観・P T A研修会・学年学級保護者会
11月7日 合唱コンクール
12月10日 学校参観日(オンライン)
P T A研修会(1, 2年)
2月 制服リユース会



今年度の附属幼稚園

各種行事等は、ウィズコロナの考えから開催方法などを再検討し、できるだけ中止せずに学校運営を行ってきました。そのために本園の重点でもある「食育」については、職員だけで準備できる規模に縮小するなど、工夫した開催が必要となりました。6月に開催した「遊びと学びフォーラム」は、昨年度より参加人数枠を広げて実施することができました。また、運動会は学年毎に時間をずらし、参観人数を増やして開催することができました。日常の保育や各種行事を通して、園児の大きな成長がみられた1年となりました。

大学との連携においては、「英語遊び」や「オペレッタ」、「ピクニックコンサート」、「食に関わる指導と手作りおやつ」の提供など、年間を通じて展開することができました。教育実習とともに、教員を志望する学生にとって貴重な経験となっています。また、大学より24台のiPadを入れていただき、今後、ICTを活用した保育に有効活用していく予定です。引き続き、本園教育に対するご理解とご協力をお願いいたします。

研究テーマ「遊びこむ子どもを育む」

主な行事と日程

- 4月26日 P T A総会(紙面開催)
6月9日 遊びと学びフォーラム
9月17日 運動会
10月6日 園外保育(年少:県庁公園、年中:ひぐらし公園、年長:千歳山登山)
10月27日 研究協議会II
11月30日・12月7・14日 ステージフェスティバル
1月11日 もちつき会食
2月15日 年長さんありがとうの会



今年度の附属特別支援学校

今年度はコロナ禍の感染対策を講じながら、校外学習を多く取り入れるなど、少しずつ教育活動の日常化に努めてまいりました。そのような状況下において、校内オンラインでの縦割り活動やクローズドブックの活用などICTを活用した授業実践にもさまざまな挑戦してきました。

修学旅行については、感染対策を講じながら、小学部は庄内・最上地方の観光地等を1泊2日でめぐり、中学部は事前にお米の学習を行い、それを基に2泊3日で庄内地方を中心に体験活動を、高等部は岩手県についてインターネット等で自分たちが興味のあるものを探し、2泊3日の旅行を実施いたしました。

「ふれあいタイム」においては、今年度は山形県フライングディスク協会の方のご協力の下、アキュラシーという輪の中にディスクを投げ入れる競技に挑戦しました。回を重ねるごとに技術が向上し、ゲームも白熱しました。

英語教育やSDGsについても学部単位で取り組みを強化しました。更なるご支援、お願いいたします。

研究テーマ「一人一人が自己の学びを実感し生活していく姿を求めて」

主な行事と日程

- 4月29日 P T A総会(2会場に分かれての開催)
5月27日 ふれあいタイム①
7月15日 ふれあいタイム②
7月29日 学習指導研究協議会I
10月7日 ふれあいタイム③
10月13日 P T A研修会
11月2日 ふれあいタイム④
11月11日 学習指導研究協議会II
11月16日 P T A 3学部合同懇談会
12月2日 ふれあいタイム⑤
1月27日 ふれあいタイム⑥
2月10日 学習指導研究協議会III
2月11日 ふれあいタイム⑦



今年度の附属小学校

子どもたちは、「一人一人のよさを分かり合い、笑顔で咲かせ心をつなげよう」という年間を通じた大テーマを掲げ、みのり班活動等を大事にしなが、コロナ禍においても着実に前進した1年となりました。

みのりスポーツフェスティバルでは、さわやかな秋空のもと、全校児童がグラウンドに集まり、学年部の競技やみのり班の長縄跳び等を精一杯取り組みました。今年度は、元気に活動する子どもたちの姿を保護者の皆様からも直接見ていただくことができました。

研究では、今年度より新しいテーマを掲げ、各教科において子どもたちが見方・考え方を働かせて(鍛えて)問題解決を進める姿をめざし、春と秋に研究協議会を実施しました。

研究テーマ「自ら問題解決を進める子ども」

主な行事と日程

- 4月23日 P T A総会
5月20日 開校記念式
6月17日 学習指導研究協議会
6月24日 みのり遠足
10月1日 みのりスポーツフェスティバル
11月4日 みのり登山
11月11・18日 秋の研究協議会
2月24日 6年生を送る集会

編集後記

コロナ禍も三年を終えようとしています。今年度は「ウィズコロナ」と言うべく、感染症対策を整えながらもP T A活動の充実を図った年になったのではないのでしょうか。四校園の活動につきまして拝読しますと、「活動に向けての教則体制」「活動開催への工夫」など、各校園P T Aの皆様のご努力が多く記載されています。このことは、本附属学校園に在籍しているお子さんの学びにも通じるものと思います。

幼児児童生徒の学びをより強固に下支えされるように、各校園のP T A活動がさらに充実なされるよう、心から願っております。最後になりますが、大学、附属学校運営部、学校園の先生方、保護者の皆様へ感謝申し上げます。編集後記といたします。

編集委員

- 結城麻記子(幼)
菅原明日香(幼)
浅野 成枝(小)
二井しのぶ(小)
羽生 紀(中)
菅 文広(中)
北澤亜紀子(特)
飯沼里恵子(特)
遠藤 邦子(特)